2023年 12 月期 第3四半期決算 アナリスト向け説明会 質疑応答録

【全体】

第3四半期の3か月（7-9月）切り出しの利益の評価は。

2022年同期と比較して弱含みだが、元々の見立て通り。2022年は在庫補充が進み下期も強かったが、今期は通常の上期偏重のシーズンとなった。

通期計画を据え置いた背景は。リスク・機会があれば合わせて教えて頂きたい。

機会は新興国二輪車のプレミアムモデルの増産、インド・インドネシア・ブラジルの売上好調、物流費の値下がり、材料費の高騰一服、円安。一方、タイ・フィリピンでインフレが進んでおり、ブラジルはアマゾン川の干ばつに伴う物流影響で生産停滞、欧州は船外機出荷が進んでいない。このリスクを最大限織り込み、通期計画は確度が高いものとして示している。

来期の収益の見方はどのような想定か。事業の強弱感を教えてほしい。

二輪車は半導体供給の改善効果が出てきており、プレミアムモデルの供給に力を入れる。マリンはラインナップ強化と投資を進めており、サプライチェーンの改善含めて環境を整え、販売機会を逃さないようにする。SPVは受注が減少しており、過剰に膨らんだ在庫調整に来期も時間がかかる想定。ロボティクスは2024年後半から復調。二輪車とマリンでSPVをカバーし全体を支える構図となる見通し。

普通株式を１株につき３株の割合で分割する株式分割の狙いは。

2024年からの新NISA制度を見越し、個人株主の割合を増やす狙い。当社の株価も高まってきたので、投資単位を引き下げ、流動性を高めたい。

【ランドモビリティ事業】

第 3 四半期の在庫水準の評価は。新興国市場のプレミアムセグメントの出荷本格化は、来年の業績ドライバーに成り得るか。

地域別に濃淡がある。フィリピンはこれまで在庫不足だったが、小売登録の新システムが混乱したことに加え、インフレ影響を受けている。タイもインフレ影響を受けている。ベトナムも相変わらず良くないが、北部は需要が戻りつつある。インドネシア、インドは下期からプレミアムモデルの増産が効いてきているが、在庫補充は来年も続く。ブラジルは好調に推移していたところ、アマゾン川の干ばつで供給網が滞っている。アマゾン川の水量は年内に復活する見通しだが、プレミアムモデルが充足するのは来年まで掛かる見通し。

インドネシアはマクロ経済が苦しいという印象だが、2024年も引き続き好調と見ている理由は。

プレミアム戦略の中でも、特にコネクテッドに力を入れている。単純に高価格帯というわけではなく、ヤマハ発動機のユニークネスを追求している。お客様自身が、走行記録やメンテナンス要否などの情報を吸い上げられるようにした。他社に先駆けて力を入れており、差別化できている。メインとなるNMAXやXMAXは増産する計画。

二輪車のプレミアムモデル向け半導体の調達状況は。

半導体そのものの供給は整ってきている。一方、周辺機器の部品対応も増加させる必要があるため、合わせて供給量を増やしていくことが課題。

【マリン事業】

大型船外機の需要動向は第2四半期から変化はないか。

中小型の在庫過多は継続、大型の150-200馬力帯も在庫調整中。200馬力以上は好調に推移しており、在庫補充、販売ともに進んでいる。オフシーズンに入った米国のディーラーやボートビルダーは2024年に向けた準備を始めている。大型船外機は堅調に推移する見通し。

マリン事業は第3四半期単独では減益。中小型船外機の在庫調整影響が大きいか。

小型船外機の出荷を絞って在庫調整を強化している。ディーラーとボートビルダーの在庫調整は進んでいるが、拠点在庫が増えている。販促を無理に強化して市場に押し込むのではなく、2024年のビジネスを見据えた調整を実施。また、未実現利益がマイナス影響を与えている。

マーケットは大型船外機の需要悪化を懸念しているが、その中でも御社が伸ばせる要因は。

大型船外機の生産効率向上にあたりボトルネックの工程を改善中。また、当社で欠落しているラインナップは投資判断を行い拡充の計画をしている。過去、船外機は大きなリセッションがない限り安定して売れる状態が続いている。インボード艇からの乗り換え需要が要因であり、このトレンドはまだ変わらない。この機会をしっかり取り込むため、準備を進めている。

【ロボティクス事業】

市況底打ちはどの分野についてか。来期回復の確度は。

製品別では、サーフェスマウンターが携帯電話やパソコンなどの基幹業界の需要減少影響を受けている一方で、EVやCASEなど安定した車載関連の需要を取り込む。また、生成AI向けの半導体製造装置の需要が高まっている。ロボティクス事業全体の売上の大半を占める中国市場は、2024年下期から緩やかに回復する想定。このような状況下で、工場の増築を進めている。同時に、コストダウン活動やプラットフォーム化により、限界利益率を改善し収益性を向上させる。

【中期経営計画】

2024年は売上・利益ともに中期経営計画を上回りそう。次の中期に向けての議論は。

2022-2024年中期経営計画で示したKPIはすべてクリアしたい。成長事業のSPVとロボティクスが今は停滞気味だが、市場は回復していく。SPVは在庫過多で調整局面だが、カーボンニュートラルの観点から需要は確実に戻る。ロボティクスは中国経済が停滞しているが、AI関連の需要が強く、時期ずれはあるものの成長軌道に乗れるとみている。新規事業はスライドで説明したバイオ関係含め、種まきをしている。

以上